

JSPSボン研究連絡センター
2012 年度第 4 四半期活動報告
(2013 年 1 月～3 月)

＜ 目 次 ＞

1 2013 年 1 月～3 月の主な活動	…p 1
(1) 第 9 回日独学術コロキウムを開催	
(2) 早稲田大学主催留学フェア Study in Japan に参加	
2 2013 年 4 月以降の主な行事予定	…p 3
3 当センターからのお知らせ	…p 4
4 センター長雑感	…p 4

1 2013 年 1 月～3 月の主な活動

(1) 第 9 回日独学術コロキウムを開催

1 月 29 日から 1 月 31 まで、ドイツのカールスルーエ工科大学(KIT)において、第 9 回日独コロキウムを KIT と JSPS の共催で開催した。日独コロキウムは、JSPS ボン研究連絡センターが、毎年異なるドイツ側共催機関と異なるテーマで開催している小規模な研究会である。今年度は“Cellular Biochemistry Shaping Animals”というテーマで、KIT の Prof. Stefan Braese と京都大学の瀬原淳子教授が日独それぞれのコーディネーターとなり、若手研究者を含む日本側 9 人、ドイツ側 8 人の研究者が集まり、研究発表とスタディツアーを行った。JSPS 本部から浅島誠理事、ボンセンターから小平センター長、大川副センター長、吉永国際協力員が参加した。

コロキウムでは、ゼブラフィッシュ、メダカ、マウスなどのモデル動物を活用した、再生過程のメカニズムを追究する研究など、化学と生物学との融合という観点から、日独の研究者による発表と討論が活発に行われた。若手研究者と女性研究者も数多く参加した。

日本とドイツの間では、この cellular biochemistry の分野で日常的に共同研究が行われており、これを機会に新たな発展が期待される。

＜ 関連 URL ＞

第 9 回日独コロキウム <http://www.jsps-bonn.de/index.php?id=1489>

当センターのこれまでの日独学術コロキウム開催状況 <http://www.jsps-bonn.de/index.php?id=77>



京都大学瀬原淳子教授の発表



JSPS 浅島誠理事の発表



カールスルーエ工科大学ブレーゼ教授の発表



コロキウム会場前

(2) 早稲田大学主催の留学フェア「Study Japan! Fair 2013 in Berlin」に参加

1 月 18 日、早稲田大学主催による日本への留学フェアが開催され、ボンセンターより小平センター長と吉永国際協力員が参加した。在ドイツ日本国大使館との共催により、ベルリン南西のダーレム地区に位置するベルリン日独センターを会場として、留学や研究のための渡日について幅広い情報提供が行われた。

日本の参加大学・機関等は、北海道大学、慶応大学、関西学院大学、京都大学、九州大学、大阪大学、立命館大学、首都大学東京、筑波大学、早稲田大学の 10 大学、及び、在ドイツ日本国大使館、日本貿易振興機構 (JETRO)、JSPS ボンセンターの 3 機関でそれぞれ情報ブースを出展した。この他、同志社大学、明治大学、名古屋大学、政策研究大学院大学、上智大学、東京大学の 6 大学とケルン日本文化会館が資料展示を行った。また、会場内の 3 つの部屋では 9 大学の教職員及び日本大使館によるプレゼンテーション、早稲田大学と関西学院大学の教員による模擬授業の他、茶道実演などの日本文化紹介が同時に進行し、来場者は関心のある部屋を回りながら、随時、オープンスペースに設置された情報ブースを訪れた。また、14 時過ぎからは「Advantages of study and research in Japan」とい

うテーマでのリレー講演が行われ、ドイツ、スイス、日本の 4 大学の研究者 4 名及び当センターの小平センター長から、若手研究者や学生に向けて研究者としての体験等が語られた。

会場となったベルリン日独センターは、ベルリンの中心から若干離れた場所にあるが、当日の来場者数は 200 人を上回った。昨年度、ボン大学の一般開放日に合わせて開催された時に比べ、今回は、本イベントのためだけに日独センターを訪れたという来場者が大半を占めた。そのため、留学や研究のための渡日について具体的な希望を持った来場者が多く、ブースでの一人当たり平均滞在時間も長かった。また、開催地がドイツの首都ベルリンであったためか、ドレスデン、カールスルーエ、国外ではウィーンからなど、遠方からの来場者も目立った。

さらに、これまで当センターが参加してきた留学フェアでは、来場者の大半が JSPS 事業への申請可能性がない高校生や学部学生であることが多く、有効な情報提供がしにくいことが課題となっていたが、今回は研究者や研究者志望の学生を含む幅広い層を対象としたイベントであったため、JSPS フェロシップへの申請を検討しているという博士課程学生や博士号取得者も当センターのブースを訪れ、より具体的な情報を提供することができた。

< 関連 URL >

Study Japan! Fair 2013 in Berlin ウェブサイト: <http://www.study-japan-fair-eu.jp/>



小平センター長による講演



JSPS のブース

2 2013 年 4 月以降の主な行事予定

4 月 26 日(金) 第 18 回日独学術シンポジウム(於ケルン)
～27 日(土)

5 月 8 日(水) JSPS サマープログラムプレオリテーション(於ボン)

10 月 7 日(月) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend”(於ボン)

3 当センターからのお知らせ

2012 年 4 月 1 日より当センターで勤務していた吉永幸恵国際協力員が、任期満了により 2013 年 3 月に帰国しました。また、2013 年 4 月 1 日から、新たに高橋祐子国際協力員と徳野智子国際協力員が当センターでの勤務を開始しました。

4 センター長雑感

昔の話で恐縮だが、ドイツに留学した最初の冬は特別に寒く、ドイツ政府奨学金の教科書用補助経費で防寒着を購入、領収書を送ったら「仕方ありません、来年からは教科書を買って下さい」と返事が来た。まだ駆け出しの研究者として生活に苦勞していた頃には、初任給の半分近くに当たる匿名の「研究者奨励金」を貰って助かった。「何にでも使って良い」というので、訳あって我が家では借金の返済に充てていた。あれが無かったら天文学者の道には進めなかったろう。後から、ホンダ自動車の創始者・本田宗一郎と藤沢武雄が自分たちの懐から捻出していた奨励金と知って感激した。日独ともに、大らかな時代だったからか。

しかし今でも、研究推進を図るのは勿論大切だが、長期的に見れば、優れた若い研究者の生活を支援するのも重要ではないか。ドイツのフェローシップには後者の色彩が強く、「配偶者手当」、「子供養育手当」などが含まれているものさえある。優れた国際共同研究を維持促進するには、優れた若い研究者の育成・交流を維持促進しなければならない。人材育成には、グローバル競争の時代だからこそ、研究費や旅費の投入以外に、「人」と「生活」への国際的配慮が欠かせない、と痛感している。

小平桂一

(2013 年 4 月 6 日)

ぼんぼん時計第 39 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)